

Let's Know Hiroshima Castle.

しろや！ 広島城



No.28



写真1 本川西河岸の常夜灯(二代目)



写真2 本川浜恵美須神社の手水鉢



写真3 本川西河岸の常夜灯と本川浜恵美須神社(「芸州広島図」より)

「芸州広島図」でたどる城下町広島

平成23年5月14日(土)に城下町フィールドワーク「古絵図でめぐる城下町広島」を行いました。これは広島城収蔵品展「お城のかたち・城下町のすがた」(4月15日～6月5日)の関連事業のひとつとして開催したもので、『しろや！広島城 No.27』で紹介した「芸州広島図」(写真4)を片手に、今に残る城下町広島の痕跡をたどってみようというものです。これまで当館が行ったフィールドワークでは、広島城の周辺や中島(現在の平和記念公園)以東の西国街道を歩くことが多かったのですが、今回は、原爆ドーム前を

スタート地点として、「芸州広島図」で手前側に描かれている城下町広島の西部を歩いてみました。そこでたどった城下町の痕跡をいくつか紹介してみましょう。

1 広島城西側外郭櫓跡

原爆ドームの西にかかる相生橋の上から、かつて広島城の外郭の櫓が並んでいた旧太田川(本川)の東河岸を眺めました。かつてはここに広島城西側外郭の12基の二重櫓^{やぐら}が建ち並び、「芸州広島図」にも描かれているように壮観だったこ

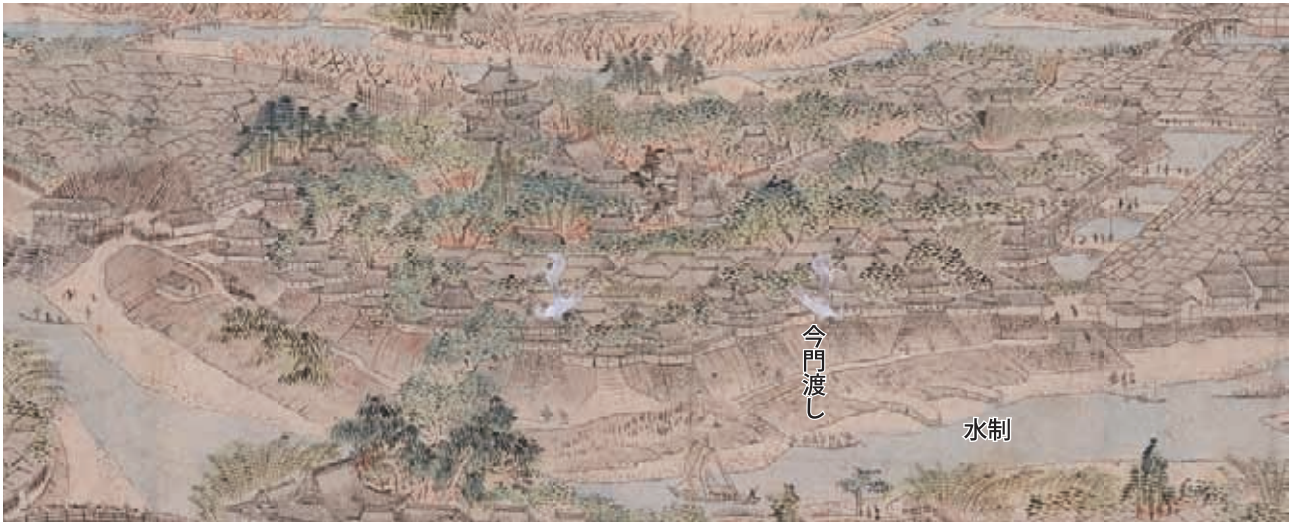


写真4 「芸州広島図」に描かれた広島城

とでしょう。12基の内、南から3番目の櫓台石垣は昭和54年(1979)に発掘調査が行われ、現在、石垣の上端の石が地上に顔をのぞかせています。この櫓台のそばからは、「今門渡し」(元和9年=1623年創設)と呼ばれる渡し船が対岸の空鞆稲生神社付近との間を結んでいました。「芸州広島図」には、この渡し船も描かれています。また、渡し船のやや下流には川に突き出た^{さんぼし}棧橋状のものが描かれています。これは治水のために設けられた「水制」と呼ばれるもので、現在では治水上は特に必要ないのですが、水辺のアクセントとして再現されています(写真5)。



写真5 相生橋から見た本川東河岸

2 本川の常夜灯

相生橋の下で太田川は元安川と本川に分かれますが、西側に流れていく本川の下流にある本川橋とさらにその先の西平和大橋の間の西河岸に^{いもの}鑄物製の^{じょうやとう}常夜灯があります。ここの常夜灯は、もともとは安永10年(1781)に設けられたもので、江戸時代以来のものは残念ながら戦前に失われてしまいました。今ある常夜灯(写真1)は

平成3年(1991)に広島県鑄物工業協同組合の広島たたら会が復元したものです。かつての常夜灯の姿は「芸州広島図」(写真3)にも描かれています。また、常夜灯のそばに今もある本川浜恵美須神社も描かれています。同神社の境内には「水盥」「文政十二歳(1829)己丑十月吉日」「広瀬組肝煎中」と刻まれた手水鉢(写真2)があり、城下町時代をしのぶことができます。

3 天満宮と堤防の痕跡

本川橋西詰めから旧西国街道を西に行くと天満川にかかる天満橋に行きあたり、橋を渡ると天満町です(写真6)。このあたりは古くは小屋新町と呼ばれ、川も小屋川、橋も小屋橋と呼ばれていました。しかし、町内に火災が多かったことから、天満宮にあやかって火災を免れようと、天明8年(1788)に町名を「天満町」とあらためました。その後、天満町なのに天満宮がないのはおかしいということになり、文政5年(1822)に天満宮が勧請されました。当初は現在地の北側、天満小学校があるあたりに祀られましたが、文政10年(1827)になってあらためて現在地へ移されました。「芸州広島図」には移転後の場所に描かれているので、同図が描かれたのは文政10年が上限ということになります。

また、このあたりの描写で注目されるのは、天満宮の北から西にかけて弧を描く二重の堤防です。この堤防にはさまれた低地は「水入り畑」とされ、通常は陸地ですが、太田川が増水した際には真っ先に水が流れ込む場所にあたっています。

現在では、かつての水入り畑も完全に陸地化され、川の水が流れ込むことはありませんが、堤防の痕跡はかすかな高低差として今も現地で見ることができます。

4 洞春橋と作蔵柳

「芸州広島図」の天満橋のやや上流に、数本の杭を打ち、板を渡しただけの簡単な橋のようなものが2本描かれています。これは、大正時代に刊行された『広島市史 第四巻』の「洞春橋」の項に、「従前附近の町民木板数枚を並列して通行せしが、明治四十年六月四日油屋町居住小川某、自費を以て架設す」とある洞春橋の前身の板橋と思われます。洞春橋は明治40年(1907)にこの場所に架けられ、のちに広瀬橋と改称されました。なお、現在の広瀬橋は昭和32年(1957)に

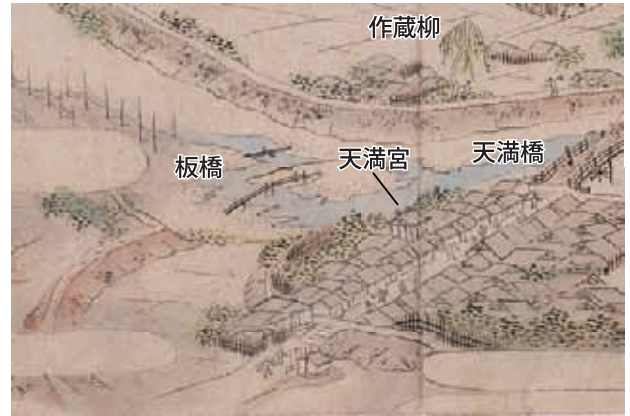


写真6 天満宮周辺(「芸州広島図」より)

架け替えられた際、約130m下流に移されています。また、板橋の東詰めに描かれている柳の木は、植えた人物の名から「作蔵柳」と呼ばれていました。なお、現地には作蔵柳そのものではないでしょうが、今も1本の柳の木が植えられています。(村上宣昭)

東日本大震災の地に残る広島藩兵の墓

東日本大震災は、豊かな自然の残る東北の町々を襲い、廃墟のような景色に変えてしまいました。震災の犠牲者の方々に深く哀悼の意を表します。また震災に遭われた地域の日も早い復興を望んでいます。

この東日本大震災の余震が続いているころ、テレビの地震速報では、「浜通り地区」という地名をよく目にしました。この「浜通り地区」とは福島県の太平洋側であり、江戸時代には、ここを南北に浜街道という道が通っていました。慶応4年(1868)の戊辰戦争のときに、広島藩の兵隊が新政府軍として、この浜街道を仙台に向けて進行したことは、あまり知られていません。

戊辰戦争とは、慶応4年1月3日の鳥羽伏見の戦闘で始まり、5月15日の江戸上野での彰義隊との戦い、7月から9月にかけて、会津白虎隊の悲劇が有名な東北での戦闘を経て、翌明治2年(1869)5月の箱館(函館)五稜郭の開城によって終結する、明治新政府軍と旧幕府勢力との戦いです。

この戊辰戦争のさなか、慶応4年7月17日、



図1 関係地図

広島藩士・河合三十郎と藤田次郎が率いた神機隊士約300名は、磐城平(福島県いわき市平)に到着します。この神機隊とは、慶応3年9月19日、広島藩士の木原秀三郎の提言により、有志を集めて結成された部隊であり、隊士の多くは農民出身の若者です。大砲や鉄砲を主力にする西洋式の軍事訓練を受けており、長州藩で高杉晋作

が結成した奇兵隊のような戦闘部隊でした。

磐城平には、幕府の老中を努めた安藤信正の平城が、新政府軍の侵攻に備えていましたが、6月17日からの薩摩藩兵を中心とした新政府軍の攻撃により、神機隊の到着する4日前の7月13日に落城しています。

広島藩の神機隊は、浜街道を北上する新政府軍の先頭として、7月22日に磐城平を出発、約1か月の間、仙台藩、相馬藩、米沢藩などの兵と戦っています。7月23日から26日の広野（福島県双葉郡広野町）での戦闘では49名の死傷者、8月1日の浪江（福島県双葉郡浪江町）の戦闘では12名の死傷者、8月11日から20日の駒ヶ嶺（福島県相馬郡新地町）の戦闘では17名の死傷者を出しています（図1）。

10月1日、仙台（宮城県仙台市）まで進んだ神機隊士216名には、広島藩から「生涯2人扶持、苗字帯刀」が与えられています。また戦死した隊士の遺族にも同様に、「生涯2人扶持、苗字帯刀」が与えられています。

この浜街道、現在の国道6号線に沿っては、戦死・戦病死した広島藩兵の墓が点在しています。

いわき市平の性源寺に10基（村上貞兵衛、檜垣助八、宮原千代蔵、木本儀平、山路関之助、大谷亀之助、田中佐太郎、影山左平、山岡吉平、高崎熊蔵）、いわき市小名浜の自性院に1基（吉川逸平）、いわき市久之浜町の末続寺に1基（林熊太郎）、いわき市久之浜町の墓所に4基（財満兵蔵、築山進之助、小川伊之松、石垣新三郎）、広野町の朝見寺に4基（菅勝之助、佐々木藤三郎、出本健之助、造賀善太郎）、双葉町の自性院に2基（高間省三、木村徳三郎）、相馬市の興仁寺に4基（早川武七郎、織田吾三郎、山原玉蔵、渡辺順平）の墓があります（写真7・8）。

いずれも、今回の東日本大震災の被災地であり、地震や津波の被害が、どこまで及んでいるのか、懸念されるところです。

※ 死傷者の人数・氏名等は、「芸藩志」から引用しました。

※ 写真は平成9年7月に撮影しました。

（広島城ボランティア「ひろしま歴史探検隊」尾川 健）



写真7 性源寺（いわき市平）の墓



写真8 いわき市久之浜町の墓所

財団名がかわりました！

平成23年4月1日、広島城の指定管理者である財団法人広島市文化財団は、財団法人広島市ひとまちネットワーク及び財団法人広島勤労者職業福祉センターと統合し、財団法人広島市未来都市創造財団に変わりました。



編集・発行

財団法人広島市未来都市創造財団
広島城

〒730-0011
広島市中区基町 21-1
電話：082-221-7512
FAX：082-221-7519

平成23年7月8日発行

広島城利用案内

開館時間：9：00～18：00
（12月～2月の平日は9：00～17：00）
入館の受付は閉館の30分前まで

入館料：大人360円（280円）
小人180円（100円）
（ ）内は30名以上の団体料金

休館日：12月29日～1月2日

ホームページ <http://www.rijo-castle.jp>



携帯サイト

📄「しろうや！広島城」のバックナンバーは、広島城のホームページからダウンロードできます